

眠り寺小屋

Tokyo Nishikawa Sound Sleep Information



毛布

寝具について⑦

快眠情報 Vol.17

やさしく、あたたかく、誰もが大好きな毛布。
ウール、シルク、綿など、いろんな素材があるので、
それぞれの特徴を理解して選ぶことが大切です。

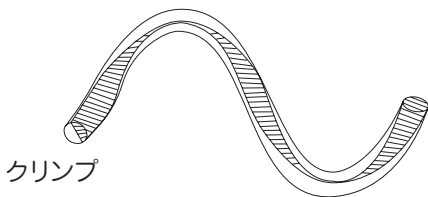
ウール毛布

毛布といえば、やっぱりウール(羊毛)
魅力は、ウールの不思議な力

ウールの特長といえば、あたたかさや弾力性。吸湿率はポリエステル37倍、木綿の2倍を誇るヒミツは、ウール独特の構造にあります。

●あたたかくてさわやか、 しかも弾力性バツグン

ウールにはクリンプという特有の縮れがあります。このクリンプが、外部の冷たい空気を遮断して内部のあたたかさを守り、逆に外部が暑いときは、暑さを遮断して内部のさわやかさを保ちます。また、押しでも伸ばしてもすぐに元に戻ろうとする性質を持っているため、すぐれた弾力性が生まれます。



クリンプ

●ウロコ状の表皮が、しずかに、 ゆっくりと水分を吸収・放出

ウールにはスケールと呼ばれるウロコ状の表皮があります。水分を吸収したり放出したりする性質があり、からだから出る汗や熱気を水滴にならないうちに吸い取ります。また、スケールは水滴をはじくという不思議な性質ももっています。



スケール

●汚れやホコリを寄せつけず、燃えにくい
帯電性が低い静電気が起きにくく、
汚れやホコリがつきにくいというのも

ウールの特長。万一、火がついても、繊維の端に焦げた球ができるだけで燃え広がりにません。

素材の特長をそのまま生かした 「ウール毛布」

こうしたウールの特長がそのまま生かされているのが「ウール毛布」なのです。

・あたたかい
ウール特有の縮れた繊維が複雑にからみあい、空気層をたっぷりつくり、外の寒さを遮断。ぽかぽかのあたたかさを生み出します。

・さらっとさわやか
湿気を吸収しては発散する、ウールの特性によって、表面はいつもさわやか。

・やさしい感触
ウールのクリンプは、伸ばしても切れずに元に戻る特性があります。それが弾力性を生み、からだにしっとりなじみます。

・燃えにくい
「火事になったら毛布をかぶって逃げろ」といわれるのは、ウールは動物性繊維なので炎にかざしても黒いコブになるだけで燃え広がらないから。有毒ガスも発生しません。

・汚れにくい
ウールには染色に欠かせないアミノ酸が19種類も結合しているため、色合いが美しくなかなか色あせしません。また、水滴をはじく不思議な働きで、汚れにくい性質を持っています。

優れた品質と高い機能性 素材がちがう西川のウール毛布

西川産業のウール毛布は、世界有数の羊の産地であるオーストラリア、ニュージーランド、イギリスから優れた品質の羊毛を調達して製品化。その確かな品質はラベルが証明しています。
家庭でも洗えるようにウォッシュアップ加



工を施すなど、さらに機能性を高めたウール毛布も登場し、使い勝手も向上しています。

カシミアやキャメル、アルパカなどの毛を混ぜたものは、あたたかさも肌ざわりも絶品の高級獣毛毛布になります。

綿毛布

ふっくらとした、 その風合いに人気沸騰

綿とは思えないほどのしなやかな感触と優雅な光沢、そして、ふっくらとしたあたたかさ……。西川産業の開発によって1985年に誕生したシール織り綿毛布は、これまでの綿の概念、毛布の概念をすっかり変えるものでした。薄くて軽く、羽毛ふとんと組み合わせるのにぴったりで、何より家庭で気軽に洗えることが最大のメリット。いろんな要素が現代の生活にマッチして、ますますその人気は高まっています。

シール織りだから、 風合い豊かで毛抜けしない

綿毛布の開発にあたって、西川では高級綿を採用し、これまで毛布では使用していなかった「シール織り」にトライ。その結果、風合い豊かで、毛抜けしない綿毛布になりました。

この風合いを味わうコツは、カバーをつけずにお使いいただくこと。羽毛ふとんと毛布を両方使う場合、通常は羽毛ふとんの上に毛布を掛けますが、薄手の綿毛布でしたら内側でお使いになっていただいても結構です。